

## OnAir 3000 ユーザーレポート

### 福井放送株式会社 様

OnAir 3000-24F



ラジオ第1スタジオをOnAir 3000で更新



**福井放送株式会社**  
**放送技術局 放送技術部**  
**西 稔弘**

#### ラジオ第1スタジオ

今回ラジオマスターの更新とほぼ同じタイミングで、ラジオの1スタを更新しました。7室あるラジオスタジオの中でも、1階ロビー脇にある1スタは、外からも見られるオープンスタジオであり、生放送のほとんどをここでやっている、メインのスタジオです。

#### 機種選定

1998年に導入したアナログ音声卓は旧社屋からの移設で、さすがにつまみやボタン等の経年劣化が進み、メーカーの保守が難しくなり、今回更新することになりました。とりわけ晩年はそういった部品の劣化に悩まされていたので、今回更新するにあたっては、なるべくハードの部分が少なく、保守がしやすい機種であることが、第一条件でした。通常、制作の人間だけで運用しているため、技術的なスキルや経験が少ないユーザーでもわかりやすく使いやすい卓であることも重要なポイントでした。毎日使うメインスタジオですから、とにかく安定して動作し、実績が十分にある機種にしたかったのは言

うまでもありません。また、ラジオスタジオの場合、ワークスペースを少しでも広くとりたいため、なるべく機器のサイズが小さいモデルである点も考慮しました。弊社では既に、6スタにOnAir 1000、4スタにOnAir 2000M2を導入しており、STUDER社のOnAirシリーズの使い勝手の良さは、現場がよく理解していたことも大きく、今回のOnAir 3000については、迷うこともなく納得して選ぶことができましたと思います。

#### 中継素材をMADIで伝送

同時に更新したラジオマスターに中継装置を導入したため、中継素材が一旦マスターに入るシステムとなりました。そこで各素材をなるべくMDFを通さずステレオでスタジオに伝送できる方法を模索していたところ、STUDERさんからMADIを使うご提案があり、今回、採用することにしました。中継架から光ケーブルを通線し、1スタのOnAir 3000の入出力フレームに直接接続することで、OnAir 3000の画面内で簡単に素材を選択できるようになり、まったく違和感なく運用できています。

#### 導入して9ヶ月

2016年2月から稼働を開始して約9ヶ月、ほぼ不具合もなく、抜群の安定性を実感しています。

現場からは、「自分で設定したフェーダー配置などをメモリーしておくことが出来、しかも放送していないながらOAに影響なく他のシーンを呼び出すことが出来る点が重宝している」(担当ミキサー)、「音質がクリアになって聞きやすくなった」(ディレクター)と高評価を得ています。また、マイクをAKGのグースネックタイプに更新したことにより、アナウンサーからは、「話す相手やゲストの表情が見やすく、とても話しやすくなった」とも言われ、ほっとしています。コンソールデスクについても、メール用PC等の既設機材を生かし、かつ使いやすい配置にしたいという弊社の要望に対して、納得できるコンソールレイアウトに仕上げていただきました。最後に、今回の更新にあたって弊社のわがままな要望に対して、いろいろなパターンをご提案いただきましたスチューダー・ジャパンブロードキャスト様、テクト様、日本音響エンジニアリング様には、この場を借りて感謝・御礼申し上げます。

